

問題【国語】

- 問1 十二支を順番に言ってみましょう。
問2 次の意味の言葉になるように□に漢字を入れましょう。
(1)60歳のこと=□曆
(2)お昼の12時のこと=正□
(3)とても仲が悪いこと=犬□の仲

豆知識 雑学コラム

十二支の順序の秘密

今年も残すところあと少しになり、年賀状を書く時期になってきました。年賀状を書くときに「来年の干支は何だったっけ」と考える以外に十二支をあまり意識しない方も多いと思います。しかし、実際には、十二支と十干を合わせて、60年で再び生まれた年の干支に還ってくることから、数え年で61歳を還暦と呼ぶことや、古文の世界で時刻を十二支で表しその名残で昼の12時のことを正午（午＝うま）と呼ぶなど、十二支は現在の生活に根付いているものの一つです。今回は、そんな十二支の言い伝えをみていきましょう。

ある時、神様が動物たちに「1月1日の朝、1番から12番目に新年のあいさつに来た者を1年交代で順番に動物の大將にする」と言いました。ところが、猫は神様のところに行く日を忘れてしまい、ねずみに聞くと「1月2日の朝」だと嘘の日にちを教えられて、猫は元日の朝に神様のところに行くことができませんでした。それ以来、猫はねずみを恨んで、一年中ねずみを追い掛け回すようになりました。

この猫が十二支に入れなかった言い伝えは有名で、皆さんもおそらく知っているかと思いますが。これ以外にも十二支についての話には、以下のようなものもあります。

最初に、猿と犬は仲良く2匹で神様のところへ向かっていた。ところが、途中の丸太橋でどちらが先に行くかで喧嘩を始めてしまいました。2匹は喧嘩をしたまま神様のところに向かい、喧嘩の仲裁をした鳥と合わせて「猿」、「鳥」、「犬」の順番で神様のもとに着きました。それ以来、犬と猿は仲が悪くなってしまい「犬猿の仲」という言葉が生まれました。

また「猿」、「鳥」、「犬」と聞くと桃太郎を連想しますよね。犬や猿は強そうなのになぜ弱そうなキジをお供にしたのだろうと疑問に感じたことはありませんか。実はこれも仲が悪い「猿」と「犬」を仲裁する「鳥（＝キジ）」がいることでチームワークが生まれるという十二支を基にした話だという説があります。全く関係なさそうな「桃太郎」にまで十二支が関係していると思うとびっくりですね。

【解答】

1 鼠、牛、虎、兔、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥
2 正午
3 犬猿の仲